

タイピックだより

7月号

2017.6.20 発行 Vol.55



今年も梅雨の季節がやってきました。梅雨の頃に南から吹く風を黒南風(くろはえ)と言います。梅雨明け間近に吹く南風を白南風(しろはえ)・しろはえと呼ぶそうです。梅雨のどんよりのした雲を押し退けるかのように白南風が吹くと、一気に夏へと気候が変わります。日本の夏は高温多湿。

蒸し暑いので、苦手だという方もいるでしょう。夏の季語に「涼(すず)し」という言葉があります。気温の高い夏に「涼し」とは、逆のようでも不思議な気がしません。この季語は、とてもポジティブな言葉なのです。酷暑の夏を過ごす中で、思いがけず訪れる涼しさに気づく。そんな幸せや感謝

の心を、暑い夏の季節に感じていた証でしょう。近年、皆で涼しい場所に集まり空間をシェアすることで、エアコンなどの電力消費量を減らそうという「クールシェア」の取り組みが推進されています。家族や知人と一緒に過ごすことで絆も深まり、楽しい時間を共有すれば暑さも乗り越えられるかも知れませんね。

今年の気象庁の発表によると、中国地方の梅雨明けは平年並で、七月二十一日頃になるそうですが、今年の梅雨期間の雨量は、西日本を中心に平年より多いと予想されています。河川の増水、家屋への浸水、土砂災害など大きな被害が無いことを祈るばかりです。



合同社内木鶏会 6/6

恒例となりました合同社内木鶏会が今年も株式会社アケボノ様の社屋にて開催されました。

今年は、アケボノ株式会社様、株式会社ビジネスプラン様に新たに建鉄工業株式会社様と有限会社マシノ保険事務所様に加わり、平日の開催にも関わらず当社株式会社タイピックを合わせて、五社六十五名という、たくさんの方の参加でした。

「社内木鶏会」とは、致知という月刊誌をテキストに、月に一回、会社内で開催する「社内での人間学を学ぶ勉強会」です。部署の垣根を越えて、意見交換を行う社内木鶏会は、話す機会の少ない部署の社員同士が一緒に感想を交わすことで、会社やお互いについての理解が深まり、また記事内の経験談や教訓を共有することで、社員同士の連帯感や連携力も高まります。そして、参加される社長の考えに触れることにより、会社のベクトルを揃えることができます。この度の合同木鶏会は、更に大きな垣根である会社や業種を越えた貴重な勉強会となりました。



「楽しく発見」「仕事に生きる」合同木鶏会

必要とされる人へ、必要とされる会社へ

Typic 株式会社 タイピック



〒698-0023 島根県益田市常盤町7番3号
Tel. (0856) 23-2800 代 Fax. (0856) 22-5592 番
<http://www.typic.jp>

社長のつづき



最近各種団体に参加することが多くなり、様々な職業の方との付き合いが始まっているが、私は、名刺を頂戴すると直ぐに「どんな仕事をされているのですか」と質問する癖がある。

何故このようなことを聞くかと云うと、本業多角化経営を目指している私にとって新しいビジネスを探しているからでもあり、弊社で取り扱える商品があれば取引をお願いしたいからである。

一方その方の会社経営内容にも非常に興味をもって様々な質問を投げかけているが、成長し続けている企業、あるいは財務内容が充実している企業は経営理念をしっかりと練り固めておられる。それと、事業計画を作成し、銀行やお取引先などを招待して経営方針発表会をされていることである。

私は「十億円企業に育てる」と、言いながら、自らのパソコンに計画を打ち込んでいるだけで、社員にその方法等具体的な施策を明示していなかった。これでは駄目だ

と思い昨年、経営計画書の作成勉強会に参加し、計画書を作り始めたけれども途中で頓挫してしまっただが、この度、「タイピック未来設計図」を作成することができた。

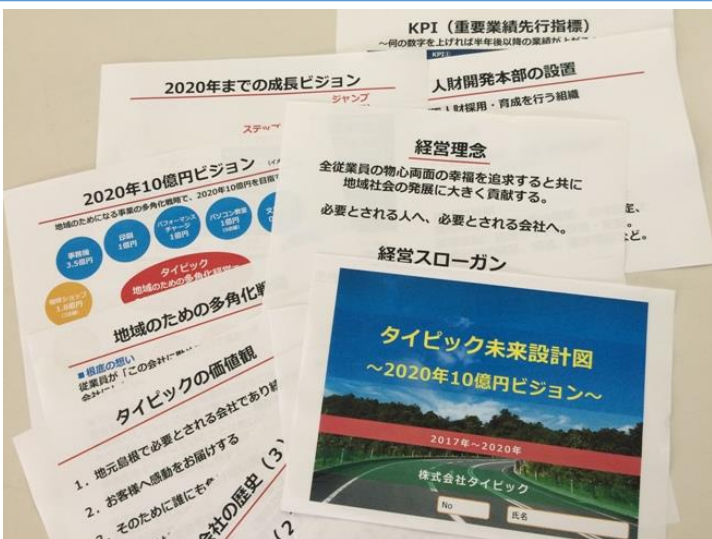
本年七月、サンパレス益田で全社員を対象に「2020年十億円ビジョン」発表会を開催する。

私は常に働く従業員が、「この会社に勤めていて良かった」と言える会社になりたいと心底思っている。そのために、雇用した人材を徹底的に教育し、活き活きと仕事をしながら地域の方々に喜んでいただける事業を展開することで、従業員やお客様の「夢」を叶える「島根ドリームカンパニー」を目指し、わずかな工夫の累積が大きな繁栄を生み出す力を信じて歩んでいきたい。

「何としても二階に上りたい」経営の神様、松下幸之助翁の言葉が思い出される。

【どうしても二階に上がろう。この熱意がハシゴを思いつかず。階段をつくりあげる。上がったも上からなくても・・・そう考えている人の頭からは、ハシゴは出てこない。才能がハシゴをつくるのではない。やはり熱意である。経営と

は、仕事とは、たとえばこんなものである。不思議なこの経営を、この仕事を、お互いに熱意をもって、懸命に考えぬきたい。やりぬきたい。」



わが社のほっとニュース
おいしく手軽に水分補給



タイピックの各フロアには、いつでも水分補給ができるようにウォーターサーバーを設置しています。男性社員からは「水の飲む量が増えたので、ジューズなどを飲む量が減り、健康にいい。」、また、女性社員からは、「以前は給湯室まで行かないといけなかったけど、すぐに水分補給が出来るのが嬉しい。」などの声が聞かれます。いつでも冷水とお湯がでるのでとても便利です。また、災害時の非常用として常備出来ます。

皆様の事務所やご家庭に、是非ウォーターサーバーを設置されませんか？



2階応接フロア



1階パソコン教室

致知の感想

特集 寧静致遠

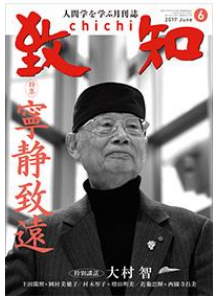
戎野 美津代

この言葉は諸葛孔明が自分の子供に書き残した言葉だそうです。(誠実で



コツコツした努力を続けなくて、遠くにある自分の目的に到達する(こ)はできない(こ)という意味)

私は自分の子に何を残してあげる事が出来るのだろうかと思いました。私は子供一人でも大変なのに、二人、四人いる人大変でしょう?と聞くことがありますが、これも近いものがあるのかなと思います。一人一人ちゃんと向き合って接し、その子の性格を見極めていけば、大変さは無くなり、子育てはきちんとできて行けそうな気がします。ずっと先を見るより、まずは足元をちゃんと見て一歩一歩進んでいけば確実に成長していけると思います。言うは易く、行つは難いですが、行動に出していける様、これから私の課題にしていきます。



勝ち残る企業はかくして創られる

印刷事業部 営業

河野 晶



勝ち残る企業創りの流れについて書かれていました。経営のゴールをサイクルを構成する六つの要素と言つ事で、その中で自分に一番関係する社員品質とは仕事力と人間力の二つであり、人間力=信頼+尊敬+意欲という定義をしていて、信頼は言行一致している人。尊敬は人の利益や幸せを考えられる人。そして意欲は自分のやる気が高いのもちろん、他人のやる気も高められる人です。

私が20代の時に参加した研修で、愚痴を言つてはいけない、なぜなら聞かされた人がやる気で仕事をしても聞かされる事でやる気が薄らいだり、悪く思つていなかった事を考え始めたりするからです。人は弱いから不平不満などの愚痴を言つ人に引く張られて意欲を失つてしまつと教わりました。私はその研修後から愚痴を言わないよう意識し始めました。仕事力は経験や学習する事によつて磨かれるが、人間力は自分だけでなく、相手を思い、お互い信頼し、尊敬し、そして意欲を高めていかなければいけないと思つていました。私は今まででもこれからも 愚痴を言わない「いつも笑顔を忘れない」を意識し、人間力を高めていきたいです。

誕生日の決意

〇A事業部 営業

杉内 崇



6月17日誕生日を迎え、42歳になります。前年が本厄で何が起こるかと思つて日々過ごしていましたが、何事もなく無事にやり過ごすことが出来ました(笑)。今年が後厄となり昨年同様(笑)に何事も無ければ良いなと思つております。

42歳という年齢を調べてみますと、

アインシュタインがノーベル賞を受賞した年齢だそうです。彼は希望していた大学で助手として研究を続ける事が出来なくなつたのですが、諦めずに働きながら独自で研究を続けた

印刷事業部

三浦 恵美子



7月10日で43歳になります。これぐらいの年齢になると、若い頃は思いもしなかつたことを始めたくなつたりして自分でも驚いています。

フルタイムで仕事をし、帰ってからも家事育児と毎日があつたという間に過ぎていってしまう中で、自分のためにも何かできることはないかなと思つておもうようになりました。時間に余裕はないけれど、むしろ自分で自分の時間を作つて何かに没頭する事が心の栄養になるのかなと感じています。何気なく時間を過ごしてしまつてももったいない

そうです、その努力が実つた年齢が42歳でした。

私は彼のような情熱があるだろうか、努力をしているだろうかと考えることが多くなつてしまつています。人間、何か始めるのに幾つになつても遅いという事は無いと言われます。私にもぎつと何か一生を掛けて情熱を掛けられる事があると思つたので、それを探す一年にしたいと思います。



ないなあと思つようになり、去年はお菓子作りと畑を始めてみました。やってみると結構楽しいもので、少し時間を作つてはケーキを焼いてみたり、野菜を植えてみたりしています。

毎日が忙しくてもこういう時間を作ることや心にゆとりができ、家族との会話も前よりもっと増えたように思います。

今年はまだ新たに何を始めようか... 少しずつ自分の時間を増やしていきたいいなあと感じる今日この頃です。



ゆっくりやさしいパソコン教室

バス遠足 奥出雲への旅

益田教室 清水 壮一

新緑深まる中、今年のバス遠足は奥出雲方面へと向かいました。

例年11月に開催していたバス遠足を、今年は季節を変えて5月に変更しました。ちょうど、映画「たたら侍」が5月20日に封切りになることにちなんで行き先を奥出雲にしたのです。

訪れたところは、「絲原記念館」、「酒蔵 奥出雲交流館」そして「竜頭が滝」。一番良かった場所は、「竜頭が滝」でした。ここは映画「たたら侍」でも撮影に使われたロケ地で、40mの高さから落ちてくる滝の見事さと、新緑の中の清々しい空気の爽やかさがマッチして、みなさん感動。



さらにスタッフが作ってくれた侍の小道具を使って「たたら侍」のシーンのマネをして映画の世界を楽しみました。滝に行くまでの片道10分ほどの細くて急な山道を上り下りしたのも適度な運動で気分爽快です。

「絲原記念館」は、江戸から明治にかけて松江藩から鉄師の御三家としてたたら製鉄を任された絲原家の住宅で、16代目当主とされる方から直接案内をしていただけました。全国的に大きなシェアがあった「出雲鉄」の歴史を知り、鉄師御三家の繁栄ぶりがよくわかりました。地元産のよく切れる包丁を買われた生徒さんもおられました。

お土産は、松本清張の名作「砂の器」の舞台となった「亀嵩（かめだけ）」にある「酒蔵 奥出雲交流館」

で奥出雲の地酒や仁多の特産品などをたくさん購入。甘酒ソフトもおいしかったです。

車中は、行きも帰りもスタッフが工夫を凝らしたゲームやクイズなどで大いに盛り上がり、寝る暇もなくあつという間の道中でした。

年一回のバス遠足は、ふだん受講時間の違う生徒さんが交流できるきっかけとして、また、同じパソコン教室の仲間同士の一体感を感じていただく場として企画しています。



パソコン教室に行けば、日常生活ではできない体験をすることができ、これからの人生の楽しみが増えること間違いありません。毎日たくさん仲間と会話をし、たくさん笑って人生を豊かにしませんか？

ぜひ一度教室に足を運んでみてください。皆様のご入会を心よりお待ちしております。



ゆっくり やさしい

パソコン教室



Typic

同じことを100回聞かれても笑顔でお答えします